



高橋和夫 議員

来年の市長選挙に 再度立候補する考えは

質 高橋和夫議員

川瀬輝夫市長は、町長就任15年を経て、市長就任1年目の平成19年2月に任期満了となります。

この間の現弥富市の発展は目覚しく、近鉄弥富駅の橋上駅舎化をはじめ、総合福祉センターや各学区の児童館の整備、小学校6年生までの医療費無料化など、市民に喜ばれる行政が推進されてきました。

市長は、今年4月には十四山村との町村合併に導かれ、弥富市の誕生に大きく寄与されました。

また、過去において、県内市町村の経済成長率第3位にランクされたことも、いかに市長が当市の活性化に寄与されたことが分かります。

現在、当市では、総工費

約41億円の新弥富中学校の建設、市南部から国道1号にアクセス予定の中央幹線道路の整備、旧十四山村との融和政策など、新市民に直接関係のある事業が山積みになっていきます。

当市が重要な岐路にある現在、来年早々に行われる市長選挙は大変重要な意味を持っていきます。

そこで、行政経験豊富で卓越した先見性と指導力を兼ね備えた川瀬市長に、再度立候補していただきたいと思いますが、どのようにお考えですか。

持てる力を引き 続き傾注したい

答 川瀬市長

私は、4期16年間、住民

との対話を基本に、新しい時代のまちづくりを目指して町政および市政に臨んできました。

その間、議員各位と市民の皆さんのご支援とご協力により、老人福祉・子育て支援をはじめとする福祉施策の充実、教育環境や都市基盤の整備を進め、まちづくりが順調に推進できたことをあらためて感謝申し上げます。

21世紀は市町村の時代といわれ、各都市の地域間競争の新たな時代に入りました。少子高齢化・情報化・国際化や地方分権の進展により、地方自治体の仕事はますます増えて困難になっており、自治体の基盤強化が急務となっています。

こうした状況の中、私は政治生命を掛けて、十四山村と弥富町の合併に奔走しましたが、それは住民のための合併に他なりません。

厳しい行財政環境の中で行政基盤を強化し、行政サービスの水準を守り、足腰の

強い自治体にするためでもあります。

合併は終着点ではなく、時代の要請に応じた新たな地域づくりの出発点であり、合併の効果をいかに早期に具体化していくかが、初代市長として市政の重責を担わせていただいた私に課せられた最大の課題であり、この使命を果たすため全身全霊を尽くしたいと考えています。

そのためには、皆さんのさらなるご支援とご協力が必要不可欠であり、市民の英知を結集して市政運営にまい進する考えです。

子どもたちが未来に夢と希望を描き、大人になったときに「合併して良かった」と言ってもらえるよう、市民の皆さんとともに手をたずさえ、個性と魅力あるまちづくりを推進するため、私の持てる力のすべてを引き続き傾注する覚悟です。